

平成 27 年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン離島・僻地病院実習

実習生：井口 聡

実習先：長崎県上五島病院 指導医：岸川 孝之 医師

実習期間：平成 27 年 9 月 2 日（水）～9 月 29 日（火）

実習生感想：

上五島は長崎県佐世保市のほぼ真西に浮かぶ面積約 214km²、人口約 2 万人の島です。長崎県全体の面積が約 4000km²、人口が約 140 万人であることを考えると決して大きな島とは言えず、今思えば失礼な話ですが、ゆったりと時間が流れる古びた診療所をイメージしつつ 9 月 1 日にフェリーに乗り込みました。

到着早々、上五島病院の事務の担当者に院内を案内していただきました。想像以上に広く、4 回の増改築を行なっているだけあって清潔で明るい雰囲気が印象的でした。産婦人科医や小児科医も常勤で在籍しており、実に初日にして予想を覆されました。

2 日目からは内科指導医の下外来、病棟往診、処置、在宅訪問の実習が始まりました。私は 30 歳台半ばでこのうのうと社会人大学院生をさせてもらっておりますが、その指導医はほぼ同年齢で内科部長と医局長を兼任していました。他の内科医も卒後 3～5 年の若手が多かったのですが、どのドクターも非常にモチベーションと技量が高かったように思います。呼吸器、消化器、循環器、腎臓、内分泌や膠原病など内科全般の広い分野をカバーしていました。それは自分たちがこの島の医療の最後の砦であることを自覚し、日々研鑽を積んでいる結果ではないかと思えます。3 次救急のヘリ搬送は別として、彼らが患者を諦めたとき、その患者は海を渡り何時間もかけて本土の病院に通わなくてはなりません。そうになると、心あるドクター達はある程度の疾患は島内で、自分たちで完結させたいと考えます。必然的に 1 人のドクターが様々な分野の知識を身につけたり、診療をしたりする必要に迫られます。人事のような表現しか見当たらないのが申し訳ないですが、大変だと思いました。



透視下での下大静脈フィルターの設置



内視鏡および透視下での肺生検



肺気腫に対する胸腔ドレナージ



腰椎穿刺

職員駐車場の近くでは病院の増築工事が行なわれている最中でした。事務の方の話では透析室を新しくするため増築するとのことでした。一見喜ばしいことのように思えましたが、この島の人工透析にかかる医療費は島全体の医療費の約半分を占めるという厳しい現実もあるそうです。島民の高齢化や食生活が関係しているようで、打開策を見出すのがなかなか困難な状況のようでした。医療費問題が叫ばれて久しいですが、高齢者率が高い地域に来たせいか、そういった問題をより身近に感じました。

実習の空き時間には、化学療法中の患者さんや肺炎、易感染などの患者さんの口腔ケアを可及的にさせてもらいました。患者さんの状態にもよりますが、これまでにないくらい感謝の言葉をいただきました。正直なところケアではなく治療をしてあげたいと思う状況の患者さんも少なからずいたのですが、それでも感謝していただき逆に申し訳ない気持ちになりました。私こそ貴重な経験をさせていただき、診た患者さん全員にお礼を言いたいです。



在宅訪問での口腔ケア



地元の開業医さんとの釣果

30年間長崎に住んでいながら、上五島を訪れたのは今回が初めてでした。豊かな自然や景観、史跡（教会群）に恵まれた土地ですが、そこで離島医療の厳しい現実を見せつけられました。しかし、現地の若い医師たちが強い使命感をもって日々診療にあたっている姿を見ることができました。医学的知識を得られただけでなく、医療人として正しいマインドを持つことの大切さを再確認させられた1ヶ月でした。上五島病院の先生方、スタッフの皆さん、がんプロに感謝します。



報告会にて